



VOL.51 winter

2008年12月26日



編集／釜石市総務企画部少子化対策・男女共同参画推進室

〒 026-0024 釜石市大町 3-8-3 青葉ビル

TEL/FAX ; 0193-22-6002

URL ; <http://www.city.kamaishi.iwate.jp/>

E-mail ; Syousi@city.kamaishi.iwate.jp

◎ 緊急特集

「ワーク・ライフ・バランス（パート2）」

◎ 報告「男女共同参画サポーター養成講座」

「思春期講演会」

「赤ちゃんふれあい体験」

「合コンお料理教室」

◎ さんかくニュース

「『均等・両立推進企業表彰』の募集」

「『いわて女性のつどい』の開催」

「『合コンお料理教室』の開催」

◎ インフォメーション

「れでいす・ねっとわーく」ほか

ワーク・ライフ・バランス

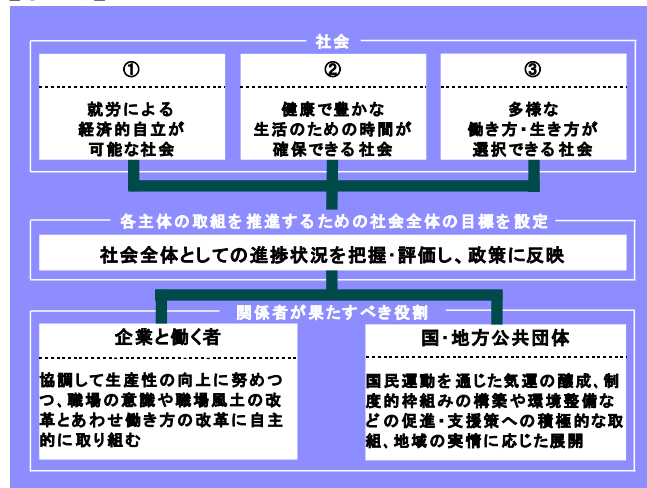
本誌 vol. 49 で「ワーク・ライフ・バランス」の特集を組みましたが、昨今の厳しい雇用失業情勢の中にあって、今後更に多様性を持った柔軟な働き方を求められる可能性があります。

このため、「ワーク・ライフ・バランス」の重要性は、今後ますます高まっていくことが予想されることから、今号でも緊急特集として取り上げます。

国は、平成 19 年 12 月 18 日、老若男女あらゆる人々が、人生の各段階において様々な活動を自分の希望するバランスで実現でき、「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環を生む社会の実現が必要との観点から、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」と「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を策定しています。

仕事と生活の調和が実現した姿

【社会】



「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」及び
「仕事と生活の調和推進のための行動指針」（平成 19 年 12 月 官民トップ会議決定）より

【個人】



「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的報告」（平成 19 年 7 月 男女共同参画会議・仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する専門調査会）より

これにより、官民間問わず、日本人の働き方を見直そうとする気運が高まりつつあり、本年 8 月 7 日、県ほか 2 者主催で「ワーク・ライフ・バランス推進セミナー釜石地区」も開催されたところです。

一方、厳しい雇用失業情勢、働き方の多様化等に対応するため、国は、平成 15 年 6 月、労働者派遣法を改正し、派遣労働に対する制限の緩和を通じて、労働力需給のミスマッチ解消や雇用機会の拡大等を図ってきました。

しかしながら、サブプライムローン問題に端を発する世界的金融危機の煽りを受け、国内の景気も低迷し、これと相俟って、製造業を中心に派遣されている労働者の多くの契約が期間切れを迎える、所謂「2009 年問題」も間近に迫り、失業者の増加等、予断を許さない状況にあります。

中小・小規模事業所が大半を占める地方では、ワーク・ライフ・バランスの実践が難しいと思われるがちですが、秋田県小坂町にある従業員数 30 人の㈱カミテは、事業所内保育施設を設置するなど、その功績が認められ、平成 13 年度に「ファミリー・フレンドリー企業表彰」厚生労働大臣賞努力賞を受賞しており、新たなパイオニアも生まれています。

長期的に見た場合、少子化対策の上でも、男女共同参画社会形成の上でも、更には企業の業績向上のためにも、ワーク・ライフ・バランスが時代の要請であることは否めません。

雇用環境の悪化が懸念されると同時に、高収入が保証され難い社会状況の中にあっては、夫婦ともに、より一層多様性を持った柔軟な働き方が望まれます。

市では、今後、国の動向等に注意を払いつつ、啓発活動等を通じて、企業の理解と協力を得ながら、ワーク・ライフ・バランス社会の実現を目指します。

報告 1 男女共同参画サポーター養成講座

平成 20 年度男女共同参画サポーター養成講座が、5 月から 11 月までのあいだ開催されました。

釜石市からは 3 人が受講し、全員晴れて新しいサポーターの仲間入りを果たしました。

あらためて、釜石市のサポーターをご紹介します。

岩切久仁さん（小佐野町）	太田フジ江さん（大平町）
久保道子さん（大字平田）	清水静枝さん（甲子町）
昆智恵子さん（東前町）	石垣邦子さん（鶴住居町）
小笠原梓さん（嬉石町）	小笠原幸雄さん（橋野町）
生田久美子さん（定内町）	千葉裕美子さん（唐丹町）
中平貴之さん（橋野町）	



報告 2 思春期講演会



去る 11 月、釜石東中学校（18 日）と甲子中学校（19 日）において、岩手県立大船渡病院副院長兼医療研修科長の小笠原敏浩先生を講師に迎え、思春期講演会を開催しました。

両校の生徒からは、「初めは興味や関心は無かったが、先生の講演を聞いて真剣に命と体について考えていきたい。」といった前向きな感想が多く寄せられました。

また、両校の校長先生からも、正しい知識をもとに自己防衛能力が備わることを期待したいと、この講演会を高く評価して頂きました。

報告 3 赤ちゃんふれあい体験

11 月 12 日、唐丹中学校 3 年生の生徒 22 人が、赤ちゃんふれあい体験を行いました。

これは乳児とのふれあいを通じて、自他の「いのちを大切にすること」という気持ちを育むとともに、自分も大切に育てられてきたことに気づき、幼い命を大切に扱うことを学んでもらうために開催したものです。

生徒たちは、赤ちゃんを実際に抱っこしたり、装具等を利用した実習を受けたほか、「自分史」の発表では、自分の生い立ちを振り返りながら、命の大切さや親の気持ち、愛情にあらためて気付いている様子でした。



報告 4 合コンお料理教室



クリスマスを目前に控えていた 12 月 10 日、独身男女に出会いの場を提供するため、お料理教室を切り口とした「出会い創出事業」を実施しました。

「サフランライスのサラダ寿司」「あさりのチャウダー」「クリスマスチキン」「2 色のキウイとプルーンのマリネ」の 4 品をメニューとして準備し、市管理栄養士の心温まる指導の下、調理や会食を通じて男女の交流を深めました。

今回の催しは、釜石市役所史上初の市直営合コンであり、反省すべき点多々ありましたが、この教訓を次回に活かしていきたいと考えています。

⑨ ～ 平成 21 年度「均等・両立推進企業表彰」の募集

厚生労働省では、「女性労働者の能力発揮を促進するための積極的な取組」又は「仕事と育児・介護との両立支援のための取組」について、他の模範ともいえるべき取組を推進している企業を表彰し、これを広く国民に周知することにより、男女ともにそれぞれの職業生活の全期間を通じて持てる能力を発揮できる職場環境の整備の促進に資することを目的に「均等・両立推進企業表彰」を実施しています。

この表彰は、平成 11 年度より実施してきた「均等推進企業表彰」と「ファミリー・フレンドリー企業表彰」を平成 19 年度に統合したもので、只今、平成 21 年度の表彰候補企業を募集中です。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

↓↓↓↓↓↓

URL ; <http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/kintou/ryouritsu.html>

★今号の緊急特集で取り上げた「ワーク・ライフ・バランス」の実践に係る、優良企業に対する表彰制度です。

⑩ ～ 平成 20 年度「いわて女性のつどい」の開催

岩手県と岩手県女性団体連絡協議会は、平成 21 年 2 月 2 日（月）10：30～14：30、岩手県民会館大ホール（盛岡市内丸 13-1）に於いて、「地域の中で男女（ひと）が共に健康で自分らしく生きていける社会の実現を目指して」をテーマに、「いわて女性のつどい」を開催します。

詳細については、岩手県青少年・男女共同参画課（電話：019-629-5348）にお問い合わせください。

⑪ ～ 平成 20 年度第 2 回「合コンお料理教室」の開催

釜石市少子化対策・男女共同参画推進室では、平成 21 年 1 月 27 日（火）18：30～20：30、市青葉ビル（釜石市大町 3-8-3）に於いて、独身男女に出会いの場を提供するため、「合コンお料理教室」を開催します。

詳細については、釜石市少子化対策・男女共同参画推進室（電話：0193-22-6002）にお問い合わせください。

INFORMATION

情報・アイデア 募集中！！

市少子化対策・男女共同参画推進室では、**れでいす・ねっとわーく**掲載用の情報・アイデアを随時募集しています。

【お問い合わせ】

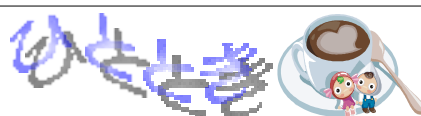
市少子化対策・男女共同参画推進室

TEL/FAX：0193-22-6002

E-mail ↓↓↓

Syousi@city.kamaishi.iwate.jp

件名に“れでいす・ねっとわーく宛”
とご記入ください。）



今年も残すところあとわずかですが、解決しなければならない課題は増える一方です。来年こそは、希望の見える明るい年であってほしいと切実に思っています。
(K. I)

中学校 2 校で思春期講演会を開催しました。中学生は、誰にも聞けなかった体と心の悩みが、正しい知識を得ることによってすっきり解決できたようです。もう一度聞きたいとの感想も多くありました。2 度聞けた担当者は幸せ者です。
(Y. C)

サブプライムローン問題に端を発する世界同時不況の中、リーマンブラザーズの倒産や日米欧自動車産業の低迷、ドバイ首長国の不動産バブル崩壊、そして国内の雇用失業情勢等々、目の前のニュースに視点を奪われがちですが、原点回歸する必要があります。
小額の住宅ローンを集めて超巨大な債権とし、金融市場を通じて世界中に流し、やがてバブルの発生と崩壊。債権所有者の信用収縮で株式相場は大暴落（視点を変えれば安価での企業買収が可能と思われますが!?）。今回の件で、誰が儲け、誰が損をしたのか冷静に観察し、ニュースで取り上げてもらいたいものです。
(T. N)